

反戰主義の歴史とその影響

穀田氏指摘 副大臣事前把握認めると

A black and white portrait of a man with short hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a dark tie. He is wearing a light-colored surgical mask over his mouth and nose. He is looking slightly to his left.

13日、衆院外務委員会で審議する設田問題

（中略）の衆院外務委員会で、日本共産党の穀田慶一が12年の講演で安保法廻避の過失と懲罰を認め未だした。

穀田氏は「自衛隊員が職務に関係する権限を部外に対し発揮する際、あらかじめ文書をもって提出する」との防衛大臣の「通達」を明記がなされた上で、穀田氏が12年の講演で安保法廻避の対象である「グレーバン事態」に「反戦モード」を位置付けていることを把握していたのかと追及。鬼木氏は「反戦」の記述が

鬼木氏は6日の同委員会で「反撃デモをグレーゾーン事態に位置付けた」とはならないとして事実関係の説明を拒否していました。鶴田氏は「講演内容を事前に把握していたから拒否した

道の鉄路ロータリークラブの例会で、鉄路駐屯地の幹部が「反戦下士」と記された資料を使い講演を行っていたことを指摘。1月の湯浅陸幕長の講演資料に基づいて作成されていた疑いを浮

使用した資料にも「反戦デモ」の記述があるのですな
いからと追及。與木氏は、その資料を敵視する資料用い
る繩糸が今も「存在している」と認め、「反戦デモ」
を敵視する講演を止めなかつた理由は、「(反戦デモ敵視が)
記述を修正してこない」とあり、防衛省の考え方だから
を明らかにしました。

また穀田氏は、本稿田藤
版の調査で20年10月に北海
を明らかにしました。

事態」と位置付いたことは
ない」としながら、「反戦デモ」を敵視する資料用い
た講演を止めなかつた理由は、「(反戦デモ敵視が)
記述を修正してこない」とあり、防衛省の考え方だから
だ」と指摘。湯浅氏の講演
原稿や配布資料の提出を求